

議会だよりリニューアル

分かりやすく、親しみやすい議会だよりを目指し、議会だよりをリニューアルしました。リニューアルに伴い、全ページフルカラー化し、レイアウト等も変更しています。これからはホームページと議会だよりの連携を強化し、情報発信の強化に一層努めます！今後とも、読みやすく見やすい議会だよりとなるよう改善を進めていきます。

一般質問

議会の映像配信をご覧いただくには

平戸市議会
まずは、平戸市ホームページ内平戸市議会トップページへ

生中継はこちらからご覧になれます

録画中継はこちらからご覧になれます

質問議員：11人

議員の名前の横にあるQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、各議員の一般質問の録画映像をご覧いただけます。また、他ページにあるQRコードを読み取ると関係資料等をご覧いただけます。



子どもたちの生活環境についての支援策は

池田 稔己（政和会）



平戸市の将来にとって、宝と言える子どもたちには、どのような支援をしているのか。

平成30年度にこども未来課を新設し、保育料の第2子半額、第3子以降の完全無料化や福祉医療の中学生までの拡充および現物給付化、放課後児童クラブやファミリーサポートセンターの設置などを行なっている。また、障害児支援では、療育支援センターの整備や通学支援などを行なっている。

平戸市での子どもの虐待問題の現状はどうなのか。また、対策はどうしているのか。

平成30年度の支援対応件数は、平成31年1月までで52件となっており、身体的虐待が14件、心理的虐待が19件、ネグレクトが19件で毎年増加してきている。対応としては、こども未来課に家庭児童相談室を設置しており、保健師1人と社会福祉主事1人を配置して、相談、指導に当たっている。

組織改革において、上司からの人事評価だけでなく、アンケート形



式で部下から意見を聞き、管理職として自分を知ることが、職場の良い雰囲気を作るためには必要不可欠ではないか。

風通しの良い職場環境を作るためにはいいことだと思うので、真剣に考えていく価値はあると思う。

支所機能において、窓口業務の充実、地域住民の重要な願いである人員体制等、今後どうなるのか。

支所については、その地域における市民に身近な行政サービスの拠点でもあり、サービスの低下があつてはならない職場であるので、現時点で減員をこれ以上進めるといふ考えは持っていない。

少子化時代の活力ある学校教育に向けて

田島 輝美（政和会）



新市になって10年間で児童・生徒数が1600人減少している。今後さらに学校規模は縮小すると見込まれる中、適正規模・適正配置を進め、教育環境の維持、向上を図ろうとしているのか教育長に尋ねる。

今後児童・生徒の減少が続くことは明らかであり、グループ学習や団体スポーツの制限、人間関係の固定化など、小規模校の問題は依然として改善されないことを考慮すると、学校の適正規模・適正配置については取り組まなければならない課題だと思つている。学校は教科を学ぶばかりでなく豊かな人間性や社会性を身に付ける集団ならではの学びの場でもあり、地域の特性を生かした地域が学校経営に参画できるような考え方を有するコミュニティスクールに取り組んでいきたいと考えている。

小規模校の打開策として統廃合を進めるのか。

有識者などを含めて計画を練り直して進めていく。

近年の猛暑の中、夏季授業日程で、

児童・生徒の体調面への影響が深刻な問題とされている。空調設備設置予算が計上されているが、財源内訳、スケジュール等について尋ねる。

小学校102室、中学校42室、計144室に設置を行う。事業費は5億3,455万4千円で国庫補助金などを差し引いた3億3,482万2千円はやらんば平戸応援基金繰入金を充てる。完成は平成32年1月を予定している。

平戸スポーツ少年団と部活動の外部指導員の現状について尋ねる。

現在は、外部指導員と1つことでボランティアで協力していただいている。今回文科省の方針が変わり、コーチ的な技術指導だけでなく、用具や施設の点検、管理、会計を含む部活動の管理運営、保護者への連絡など部活動指導の導入ということが進められている。

意見 人材確保が困難であると思われる。スポーツ少年団と中学校の部活動の在り方については、教育委員会としてしっかり取り組んでもらいたい。

持続可能な廃棄物行政を目指して

近藤 芳人（平伸会）



し尿事業は下水推進の政策の中にあつて徐々に先細りする運命にある。事業存続できるように市が率先して考えるべきだ。

し尿のみの業者（浄化槽業務ができな）が5社ある。組合とも協議してきたい。

し尿収集料金は事業者にとって妥当なのか。し尿運搬交付金（クリーンセンターまで遠い地区のし尿運搬に交付）も併せて持続可能な許可事業運用を目指すべきだ。西海市にも同様の制度があるが本市の10倍近い額だ。

深いところまでは踏み込んでいないので、今後、十分調査し、組合とも協議をしながら検討・研究をしたい。

し尿収集の料金は大島とそれ以外では倍々というの差があるが。

改定を考えているが、激変緩和の観点から段階を踏んで行う予定。

値上げするばかりでなくフェリー代の支援を今以上に充実させるべし。

おっしゃる通り。今後、検討・研究したい。

大島においては中間貯留槽を市が建設してきた。今後、他地域の事業者も必要になったら市が作るのか。

市が整備した方がいいのか、補助金が適当なのか検討したい。

浄化槽の収集運搬清掃業務の料金を市は把握しているか。

市は直接関与していない。統一された金額ではないと思う。

市が料金を知らないのはおかしい。離島料金の航送料見合分を市が負担すべきだ。おしなべて各制度が標準化されていない。

今回の指摘で、本土と離島同士、そして自治体間の格差が分かった。本来なら責任を持つ行政がきちんと捉えて、住民の不利益にならず事業者が付託された任務を遂行できる仕組みをつくるべきだが、同業者組合との連携も綿密な打ち合わせもなかったように聞く。私自身もそこに思いが行き届かなかったことを深く反省する。これを機に事業者も安心安全な業務遂行ができる包括的な管理運営体制を構築しなければならぬと強く思った。